

消費活動は鈍化

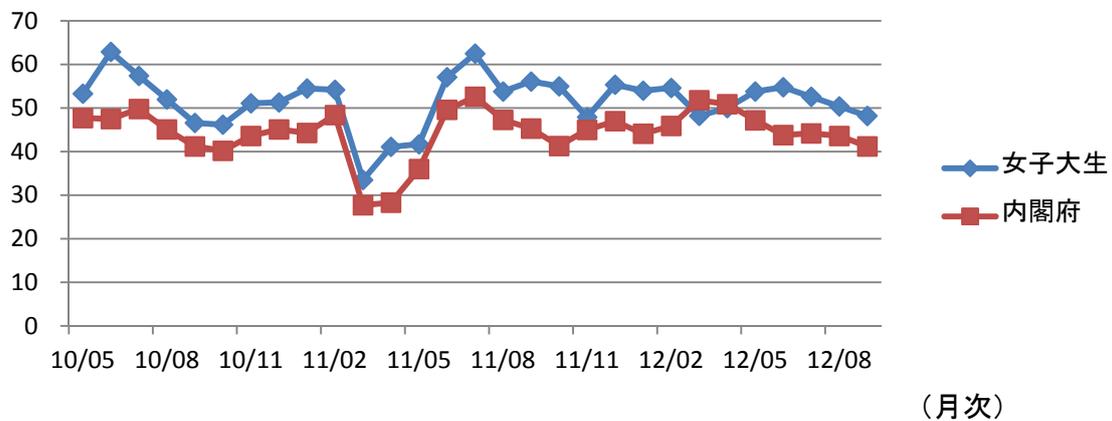
9月の女子大生景気ウォッチャー調査は、景気の現状判断DI（方向）が48.2となり、下降傾向を見せた。先行きDIも6月に比べ、大きく下落した。景気の現状に対する女子大生の意識と内閣府で発表された統計の結果に大きな差が出た。

今回の傾向としては、夏が終わり、クリスマスまで大きな恒例行事がないため、消費活動が鈍くなるという意見があった。一方で、正月商戦の準備が始まっているため、消費活動が活発になるのではないかという意見もあった。

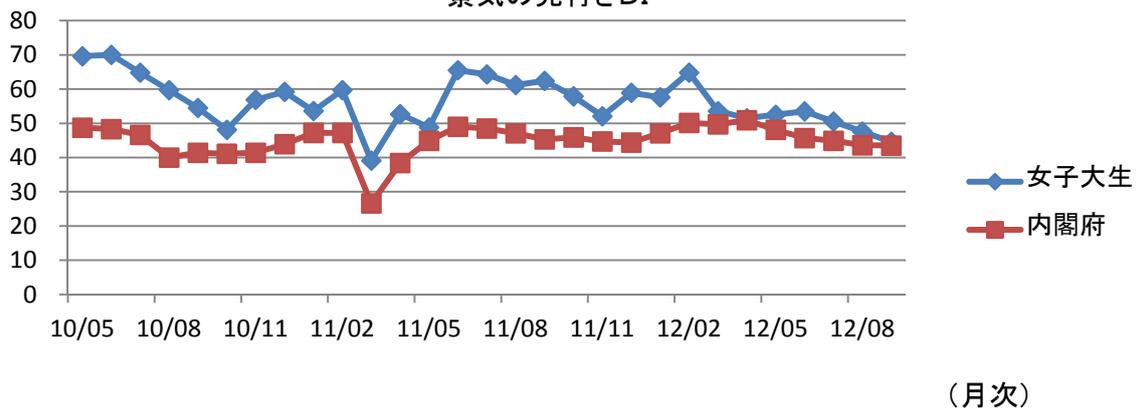
(跡見学園女子大学マネジメント学部 山澤ゼミ 熊澤、丸山)

調査日=10月2日、調査人数=大学3生14人。

景気の現状DI



景気の先行きDI



景気判断DIは、①良い1点②やや良い0.75点③どちらともいえない0.5点④やや悪い0.25点⑤悪い0点として、それぞれの構成比を乗じて計算する。全員が良いと答えた場合は100、全員が悪いと答えたの場合は0となる。